

資料

阪神間モダニズム・タカラヅカ巡検報告

昨年度好評だったお茶の水地理学会(旧・地理学科/現・地理学コース同窓会)と明日香(奈良女子大学 旧・地理学同窓会)の合同巡検は、9月21日(日)に奈良・大阪で行われた。今年度も内田忠賢先生が周到に準備をしてくださり、お茶の水地理学会と明日香に加え、桜蔭会(東京女子高等師範学校/お茶の水女子大学同窓会)大阪支部と佐保会(奈良女子高等師範学校/奈良女子大学同窓会)からも参加者があり、途中、次々と合流者が増え、最多で約40名が集った。ここでは簡単にその時の行程を紹介する。

巡検前日の20日の午後、関東からの参加者の宿泊先である奈良女子大近くにある共済会館「やまと」に集合し、奈良公園の鹿苑へ向かった。そこで病気や怪我で保護され、乃至諸般の事情で拘束された鹿が飼育されている様子を鹿愛護協会の方から説明を伺い、実際に見学させていただいた。奈良公園を散策してから、近鉄奈良駅近くの「四季旬菜 大和路」にて懇親会、昨年も参加したお茶の水地理学会と明日香会の方々は再会を喜び、お互いの校歌を交換し合った。奈良女子大学の先生や比較的最近の卒業生も駆けつけられ、皆さんの挨拶で会場は沸き、前夜祭から盛り上がっていた。

21日の朝、「やまと」に宿泊していたお茶の水地理学会の会長はじめ9名は6時45分にロビーに集合、懇親会の場で明日香会の方に教えていただいた二月堂近くの崩れ土塀を見学がてら散歩に出かける。石造りの階段の両側にある石の基壇に白漆喰の壁、その上には鉛色の瓦の屋根が設えられ、風情のある趣を呈していた。のんびり朝の散歩を楽しんでから慌ただしく朝食をとり、その日の集合場所へ向かう。道中近鉄奈良駅構内の通路

の壁を見ると、朝それぞれが写真を撮った見覚えのある崩れ土塀を背景に竹下景子がポスターの中で微笑んでいた。被写体のお陰か、朝の散歩で見た同じ土塀がますますよく見えてきた。

さて、最初の集合場所は近鉄奈良駅であった。そこから鶴橋駅に移動、ピンクや黄緑の鮮やかなコリアンの民族衣装が飾られたショーウィンドーや、おいしそうなた巻きや豚足が並ぶ店先に目を奪われながら鶴橋商店街を駆け抜けるように通り過ぎた。JR大阪駅で数人合流、徐々に大きな団体になっていく。阪急梅田に移動して宝塚線で池田駅へ。一旦解散して昼食、日清のインスタントラーメン発明記念館等を見学した。筆者は日清直営の百福亭へ直行、800円の百福元味ラーメンを注文、内田先生が用意してくださった替玉只券を利用しておかわりし、更に半チャーハンを食べて味量共に大満足であった。インスタントラーメン発明記念館では、これまで販売されたインスタントラーメンのパッケージが壁面いっぱい飾られ、懐かしいものを見つけると嬉しくなった。安藤百福がインスタントラーメンを発明した台所も



崩れ土塀



日清インスタントラーメン発明記念館

そこに再現されていて、これらの素朴な道具で試行錯誤が繰り返され、そして生まれたインスタントラーメンが今やグローバルフードになったと思うと感慨無量であった。その界限には呉春の酒蔵、落語みゅーじあむなどもあったようだ。

次の目的地、池田室町住宅地は日本最初の分譲住宅地である。その住宅地にある室町会館で、町内会の方に月賦方式による分譲販売に成功した小林一三の行った宅地開発について伺い、小林一三の行った電鉄事業をはじめとした都市開発事業の概要について知ることができた。時折雨のぱらつく曇り空を気にしながら住宅地を歩き、今もある明治時代に分譲された木造住宅の外観を見学する。旧小林一三邸で今は改装中の逸翁美術館もその界限にあり、堀の内側にあるその瀟洒な西洋建築を確認する。雨脚が強くなる中を池田文庫へ。竹下夢二の絵が描かれた楽譜や古い雑誌等、小林一三ゆかりの資料を手にとって見せていただいた。

池田駅に戻って宝塚駅に移動する間、外は豪雨で歩けるか心配したが、宝塚に着く頃には雨も止み、宝塚駅前で安藤忠雄が設計したというナチュラルスパ、宝塚音楽学校、宝塚大劇場を横目に見ながら大急ぎで宝塚市立手塚治虫記念館へ、門前には火の鳥が鎮座していた。記念館には、手塚治虫の漫画の原画が展示され、中には少年期に描いた写真と見まがうほどの精緻な昆虫等のス

ケッチもあった。漫画の原画を間近でよく見ると、絵のそこそこにスクリーントーンが、噴出しの語りの部分には文字を印字した紙が貼られ、インク等がはみだした部分がホワイトで消されており、細かい作業の様子が目に浮かんできた。筆者が学生の頃、地図を手作業で描いたことを思い出して懐かしくなった。宝塚駅から梅田駅に向かう電車の車窓から一瞬で通り過ぎる看板と照明から甲子園球場の存在を確認、慌ただしくまたの再会を(今度は関西か関東か)約して、別れを惜しみつつ解散となった。

今回の巡検は、上記の報告のように駆け足であったが、盛りだくさんの企画で大変充実していた。昨年に引き続き巡検を企画・案内して下さった内田先生、参加者がはぐれないように連絡係をしてくれた内田先生のご子息環君、池田と宝塚をそれぞれご案内くださった奈良女OGの高坂さんと溝端さん、そしてこれだけ大勢の参加者を呼びかけ取りまとめて下さったお茶の水地理学会事務局の須野原さんのお陰で、阪神間モダニズム見学が成功したのみならず、世代を超えた両校の交流が広がった。末筆ながら、楽しいひとときを共有させていただきまことに感謝し、この機会を与えて下さった皆様に御礼申し上げます。

(文責：森本 泉)



内田先生と環君